

日本臨床検査学教育協議会
令和7年度 第1回理事会

開催日：令和7年5月12日(月) 13時～15時

場 所：Zoom によるオンライン

構成員数：理事20名、監事2名

出席者数：理事19名、監事2名

出席理事：坂本秀生(理事長)、三善英知、山藤 賢、中前雅美、市野直浩、小野川 傑、三浦昌人、松田洋和、吉田祥子、井口文子、大瀧博文、野島順三、石井直仁、關谷暁子、多田達史、山口 聡、勝田 仁、高崎昭彦、富山智香子、高木清司、杉本恵子、宮本綾、石岡聡子、吉田 繁

出席監事：伊藤昭三、上原昭浩、原田典明

欠席理事：松林こずえ

一本下線は令和6年度まで担当、二本下線は令和7年度から担当

オンラインゆえ、参加者全員への音声確認、意思疎通が行えることを確認後の13時から開始。

報 告 事 項

1) 令和 7-8 年度 役員の担当 報告：坂本理事長

定款に従い坂本理事長が副理事長へ三善英知氏、山藤賢氏、關谷暁子氏、高崎昭彦氏、常務理事へ常務理事を指名すると報告があった。ついで各種委員・部会担当として法務委員長へ高木清司氏、調査研究委員長へ杉本恵子氏、国家試験対策の委員長へ大瀧博文氏、副委員長へ中前雅美氏と宮本綾氏、地区部会委員長へ石岡聡子氏、将来問題検討委員長兼大学大学院教育部会長へ野島順三氏、短大専門学校教育部会長へ山藤賢氏、国際協力委員長へ石井直仁氏、編集委員会委員長へ多田達史氏、副委員長へ吉田祥子氏、研修委員長へ山口 聡氏、学会運営委員長へ勝田 仁、学術委員長へ富山 智香子氏を指名し、定時総会で上記担当を審議事項とする報告があった。

2) 臨地実習指導者講習会 報告：坂本理事長

修了実績			
実施年度	修了者数	在籍施設累計	修了者累計
令和 3 年度	498	498	498
令和 4 年度	559	922	1,057
令和 5 年度	597	1,189	1,654
令和 6 年度	536	1,304	2,190

令和 7 年度予定

日本臨床衛生検査技師会(日臨技)ホームページで公開中

4月6日 関甲信支部

7月6日 中四国支部

7月20日 首都圏支部

準備中で確定次第に公開

8月24日 北日本支部
9月7日 九州支部
10月26日 近畿支部
12月21日 首都圏支部
1月25日 中部圏支部
2月～3月 近畿支部

3) 臨地実習に関する日本臨床衛生検査技師会との協議 報告：坂本理事長

本会と日本臨床衛生検査技師会における協議している事項として以下の報告があった。

- ① 令和6年度本会の調査から得た、臨地実習施設での学生受入れの実態を共有
- ② 臨地実習生への評価内容を見直す動き
臨地実習ガイドライン様式8を改善予定
- ③ 臨地実習時に学生が経験すべき行為
スパイロメーターについて要望予定、尿沈渣の要望が日臨技から要望あり
- ④ 学生と臨地実習施設のマッチングができる仕組みの検討
実習施設にて「実施必須」「見学必須」「望ましい行為」可能な項目を閲覧できるよう、これらのデータを本会側で情報収集し、検索システムの構築を行う。
- ⑤ 臨地実習施設向けポスターの作成
臨地実習施設で患者さんから同意を頂けやすいよう、臨床検査技師学生が臨地実習生として、指導者立会いの元に検査の実施または見学することの案内

4) 各種委員会報告

国家試験対策委員会 報告：大瀧理事

- ① 模擬試験進捗状況：問題作成者決定後の依頼確認、ならびに問題作成中。
- ② 6月下旬に模擬試験受注案内（R6年と同様）
- ③ 模擬試験価格（昨年と同様）：問題1セット(A,B)「本体1,600円＋税160円 合計1,760円」
- ④ 国家試験対策委員で担当分野を割り振り、問題を校正する。

模擬試験作成今後の予定

～6/10：問題作成
～7/26：委員による校正完了
～9月下旬：印刷完了、発送

模擬試験発注などの予定

6月初めまで：模擬試験受注案内
6月下旬頃まで：受注についての各校からの回答
10月下旬ごろ：模擬試験代金支払い

地区部会委員会 報告：石岡理事、坂本理事長

1. 令和7年度活動計画

近畿中国四国部会総会・研修会 令和7年6月8日（日）オンライン（zoom）開催
研修会 テーマ「災害対策について」

- ① 高知県ならびに高知学園大学での災害対策
高知学園大学健康科学部臨床検査学科 准教授 小野川 雅英 先生
- ② 南海トラフ地震への医療支援について
広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学 契約技術職員 田治 明宏 先生

国際協力委員会 報告：石井理事

1. 「Learning Lab for Laboratory Medicine」の翻訳確認協力
令和5（2023）年から継続し、ADLM(Association for Diagnostics & Laboratory Medicine, 旧 AACC)、IFCC (International Federation of Clinical Chemistry) 及び New England Journal of Medicine が協力して作製した臨床検査の適応型学習教材を英語から9ヶ国語へ翻訳するプロジェクトの日本語訳確認作業を行った。
国際協力委員会の委員を中心に本会からも協力を募り、18テーマへ会員校の先生方から協力を頂き、翻訳確認を進行中である。

広報委員会 報告：關谷理事

1. 中高生向けコンテンツの作成について
臨床検査技師の多様なキャリアについて、中高生に発信する動画コンテンツを作成する予定。
出演者の募集などを各校に依頼する際には、ご協力をお願いしたい。

編集委員会 報告：多田理事

1. 「臨床検査学教育」17巻1号（令和7年3月1日発刊）第18回日本臨床検査学教育学会学術大会特集）
総説1、報告1、資料3、学術集会における特別講演等の原稿15件、学生優秀発表賞受賞演題13件、編集後記
2. 「臨床検査教育」17巻2号（令和7年9月1日発刊予定）
総説1、資料1、関連学会報告、教育機関紹介、国際交流、書評、編集後記を予定

研修委員会 報告：山口理事

1. 令和7年度活動予定
 - ① 委員会の適宜実施（研修会のテーマおよび講師の選定など）
 - ② 教員研修会を9月と3月に2回実施予定
2. 令和7年度第1回教員研修会について
9月中旬～下旬の実施で計画（日時未定）
テーマ「臨床検査分野への進学状況と進路選択の現状（仮）」
講師：進研アド（ベネッセ）より講師派遣の予定（録画の公開については承諾）

学会運営委員会 報告：勝田理事

1. 第19回日本臨床検査学教育学会学術大会
大会長：廣畑 聡（岡山大学医学部保健学科検査技術科学専攻）
期日：令和7年8月21日（木）～22日（金）
2. 今後の教育学会学術大会の開催予定
第20回（2026年）の開催案内（九州・沖縄支部：九州大学）
第21回（関東・中部・甲信越支部：北里大学）
第22回（北海道・東北支部：東北大学）
3. 第23回（2029年）教育学会学術大会の開催校募集について
＊近畿・中国・四国支部から選出を予定

学術委員会 報告：高崎理事

1. 令和6年度活動報告
・令和6年度科目別分科会（令和6年8月23日 於：新潟大学）11分科会が学術大会時に実施

- ・学術委員会を1回開催した（第1回学術委員会：令和6年11月14日 オンライン）
 - ・適宜メール会議（内容：アンケート実施要領、質問項目打合せ）を行った。
2. 「臨地実習前技能修得到達度評価」についての検討
 - ・各分科会での検討結果を第1回学術委員会にて情報共有した。
 3. 令和6年度「臨地実習前技能習得到達度評価」実施に関するアンケート調査を2月に実施。
結果については別添資料1 参照
 4. 令和7年度活動予定
 - 2回の学術委員会を予定。以下の内容を中心に活動する。
 - ① 令和7年度学術委員会委員名簿作成
 - ② 令和7年度科目別分科会開催（令和7年8月21日 於：岡山大学）
 - ③ 令和7年度分科会会長・副会長名簿作成
 - ④ 「臨地実習前技能修得到達度評価」に関する項目、評価方法などの検討を継続する。
 - 5) 医歯薬出版国試対策問題集 報告：坂本理事長

■概要

書名：臨床検査技師国家試験問題集 2026 年版
 オンラインテスト／第 67-71 回国試問題・マークシート PDF 付
 編集：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
 体裁：B5 判 688 頁 2 分冊：本体 592 頁（1 色刷）カラー図版・解説集 96 頁（カラー＋1 色刷）
 読者対象：臨床検査技師国家試験受験者
 定価：8,800 円（本体価格 8,000 円＋税 10%）
 発行日：2025 年 5 月 25 日（出来予定：2025 年 5 月 20 日）
 発行：医歯薬出版株式会社刷り
 部数：1,900 部

■著作権使用料

本体価格×実売部数×10%（5%を日本臨床検査学協議会，5%を執筆者 15 名で頁按分）

6) その他

なし

議 案 審 議

第一号議案 令和6年度事業経過報告

令和6年度事業経過報告につき小野川常務理事より、以下の説明があり審議の結果、承認された。

文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連学術団体、臨床検査業関連との連絡・協議を行った。改正された臨床検査技師学校養成所指定規則に則り、日本臨床衛生検査技師会と合同で臨地実習指導者育成にむけた臨地実習指導者育成協議会への参加、ならびに実習指導者講習会の運用を昨年度に引き続き継続した。また、タスクシフト関連教育用動画の製作を行った。さらに日本臨床検査学教育学会、編集委員会、研修委員会、学術委員会、国家試験問題検討委員会などの活動を通じて、臨床検査学の啓発と教育問題に関する調査研究を行った。

なお、2025年5月定時総会をもって理事長任期満了に伴い、2024年11月下旬に次期理事長選挙を実施した。

令和6年

5月13日：第1回理事会：Zoom会議

5月27日：令和6年度定時総会：Zoom会議、

8月5日：第2回理事会：Zoom会議

8月23日：日本臨床検査学教育学会評議員会：対面（Zoom併用）

11月26日－11月29日：理事長選挙

12月2日：第3回理事会：Zoom会議

12月16日：令和6年度臨時総会：Zoom会議

令和7年

3月18日：教員研修会：Zoom会議

（その他）

・会員校の加入開拓：久留米大学医学部医療検査学科、愛知淑徳大学保健医療科学部医療貢献学科、北里大学医療科学部医療検査学科、鹿児島天文館メディカルカレッジ臨床検査学科、東京医療保健大学医療保健学部医療栄養学科（加盟順） 3月末時点で加盟校数104校（議決権をもつ加盟校数）

・ホームページへの情報掲載：理事長選挙関連の情報などを掲載

・臨地実習指導者講習会の受講状況：施設当たり2名以上の配置が進んでいる

第二号議案 令和6年度収支決算報告

令和6年度収支決算報告につき小野川常務理事より、以下の説明があり審議の結果、承認された。

令和6年度 収 支 計 算 書
自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

(単位 円)

勘 定 科 目	R6年度予算額	R6年度決算額	差 引	備 考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
一般会費収入	7,410,000	7,580,000	170,000	会員校104社、賛助会員3社
雑 収 入	1,750,000	1,534,752	-215,248	印税、看護協会WIIII手数料、他
学術学会関連収入	4,800,000	6,801,800	2,001,800	日本臨床検査同学院義援金 他 参加費、寄付金、広告掲載料、学 会準備金返金分
模擬試験関連収入	6,688,000	6,805,950	117,950	模擬試験問題冊子販売収入 3,867 部 (¥1,600+税 ¥160= ¥1,760)
事業活動収支計	20,648,000	22,722,502	2,074,502	
2. 事業活動支出				
事業費支出	12,489,844	15,375,143	2,885,299	
教育講演料	100,000	100,232	232	学術大会、定時総会、地区部会セミ ナー講師謝礼及び交通費
教育普及活動	5,540,000	5,960,666	420,666	模擬試験問題作成費、印刷、配送 料 模試作成料、校正料、動画制作
臨地実習指導者講習	949,844	949,844	0	臨地実習指導者講習会運営経費
学術大会開催	4,400,000	7,003,151	2,603,151	第18回学術大会開催
学会誌出版	1,500,000	1,361,250	-138,750	学会誌電子化編集費 16巻2号、 17巻1号
管理費支出	5,441,730	5,156,787	-284,943	
広告宣伝費	596,530	596,530	0	Webサイト管理(月額) ¥44,000× 12= ¥528,000、サーバー費用、ド メイン費用1年分 ¥68,530
印刷費	50,000	0	-50,000	協議会名入り封筒印刷、役員名刺 印刷等
租税公課	0	0	0	法人登記変更費用
接待交際費	50,000	6,256	-43,744	庶務費、手土産など
通信費	150,000	141,944	-8,056	協議会用携帯電話使用料、イン ターネット使用料、郵便切手、宅配
会場費	50,000	50,000	0	令和6年度国試問題検討委員会施 設使用料他
消耗品費	150,000	24,560	-125,440	文具類、コピー用インク、事務用器 材等
行事費	230,000	298,244	68,244	各種委員会委員日当、理事長選挙 電子投票システム利用経費
旅費交通費	150,000	133,874	-16,126	理事、委員の交通費・宿泊費
会議費	145,200	147,972	2,772	Zoom年間契約料
顕彰費	150,000	91,447	-58,553	永年格助賞表彰状、送料
寄付金	500,000	500,000	0	能登半島地震義援金
事務局運営管理費	2,600,000	2,603,760	3,760	事務局人件費(アルバイト2名×12 か月) 事務局賃料、PC調整費等
雑 費	550,000	492,200	-57,800	税理士顧問料、振込手数料、ネット バンキング使用料
法人税等	70,000	70,000	0	東京都法人住民税均等割
事業活動支出計	17,931,574	20,531,930	2,600,356	
事業活動収支差額	2,716,426	2,190,572	-525,854	
II. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
出資金収入	0		0	
受取利息	433	17,004	16,571	
財務活動収入計	433	17,004	16,571	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0		0	
財務活動収支差額	433	17,004	16,571	
III. 予備費支出				
当期収支差額	2,716,859	2,207,576	-509,283	
前期繰越金	30,036,670	30,036,670	0	
次期繰越金	32,753,529	32,244,246	-509,283	

第三号議案 令和6年度監査報告

令和6年度の監査について伊藤監事より、以下の説明があり、審議の結果承認された。

監査報告

一般社団法人

日本臨床検査学教育協議会

理事長 坂本 秀生 殿

定款第3章第13条5および会計規程第6章36条の規定に基づき、
令和6年度の会計帳簿および事業報告の内容を監査した結果、会計
は正確に処理されており、また会務は適正に運営されていることを認
めます。

令和7年5月1日

監事

伊藤 昭三



監事

上原 昭浩



第四号議案 令和7年度事業計画案

令和7年度事業計画案につき小野川常務理事より以下の説明があり、審議の結果、承認された。

文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連学術団体、臨床検査業関連との連絡・協議をする。会員校との意見交換や相談などに対応する。また、日本臨床衛生検査技師会との合同事業である臨地実習指導者講習会の継続と、臨地実習指導者育成協議会に参画することでよりよい臨地実習の環境づくりを目指していく。さらに、臨床検査学の啓発とさらなる教育力向上を目指して、日本臨床検査学教育学会、編集委員会、研修委員会、学術委員会、国家試験対策検討委員会などの活動を通じて調査研究を行う。

令和7年

5月12日：第1回理事会：Zoom会議

5月26日：令和7年度定時総会：Zoom会議、令和7-8年度役員による新体制発足

8月4日：学術理事会、第2回理事会：Zoom会議

8月21日－22日：第19回日本臨床検査学教育学会 学術大会：岡山大学

8月21日：日本臨床検査学教育学会 学術総会、学術評議員会：岡山大学

9月：教員研修会

12月1日：第3回理事会：Zoom会議

12月15日：令和7年度臨時総会：Zoom会議

3月：教員研修会

（事業予定）

- ・機関誌「臨床検査学教育」発刊（編集委員会）
- ・加盟校学生向け国家試験模擬試験問題の作成（国家試験対策委員会）
- ・臨地実習指導者講習会の日本臨床衛生検査技師会との合同運営（臨地実習指導者講習会受講終了施設の情報管理などの新規事業を含む）
- ・臨地実習施設検索システムの運用開始
- ・臨床検査技師学生臨地実習に関する啓発ポスターの製作

（その他）

- ・「学術会員登録名簿」の管理（各校への配布は行わない）。

第五号議案 令和7年度予算案

令和7年度予算につき小野川常務理事より以下の説明があり、審議の結果、承認された。

令和7年度 予算計算書

自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日

(単位 円)

勘定科目	R6年度決算額	R7年度予算額	差引	備考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
一般会費収入	7,580,000	7,580,000	0	会員校104校、賛助会員3社
雑収入	1,534,752	1,500,000	-34,752	印税、看護協会WIII手数料他
学術学会関連収入	6,801,800	4,800,000	-2,001,800	印刷費、寄付金、広告掲載料、学会等諸金収金分
模擬試験関連収入	6,805,950	6,864,000	58,050	模擬試験問題冊子販売収入 3900部の見込み (¥1,600+税 ¥160=¥1,760)
事業活動収支計	22,722,502	20,744,000	-1,978,502	
2. 事業活動支出				
事業費支出	15,375,143	13,683,435	-1,691,708	
教育講演料	100,232	100,000	-232	定時総会、教員研修会、地区部会セミナー等講師謝礼及び交通費
教育普及活動	5,960,666	5,400,000	-560,666	模擬試験問題作成費、印刷、配送料 模試作成料、校正料、臨地実習施設検索システム費・臨地実習生ボス夕一費
臨地実習指導者講習	949,844	383,435	-566,409	臨地実習指導者講習会運営経費
学術大会開催	7,003,151	6,300,000	-703,151	第19回学術大会開催
学会誌出版	1,361,250	1,500,000	138,750	学会誌電子化経費 17巻2号、18巻1号
管理費支出	5,156,787	4,974,502	-182,285	
広告宣伝費	596,530	596,530	0	Webサイト管理(月額) ¥44,000×12= ¥528,000、サーバー費用、ドメイン費用1年分 ¥68,530
印刷費	0	50,000	50,000	協賛会名入り封筒印刷、役員名刺印刷等
租税公課	0	80,000	80,000	法人登記変更費用
接待交際費	6,256	50,000	43,744	庶務費、手土産など
通信費	141,944	150,000	8,056	協議会用携帯電話使用料、インターネット使用料、郵便切手、宅配便送料
会場費	50,000	50,000	0	R7廣国試問題検討委員会施設使用料
消耗品費	24,560	100,000	75,440	文具類、印刷用インク、事務用器材等
行事費	298,244	230,000	-68,244	理事・各種委員会委員日当
旅費交通費	133,874	150,000	16,126	理事、委員の交通費・宿泊費
会議費	147,972	147,972	0	Zoom会議契約料
顕彰費	91,447	150,000	58,553	永年精励賞表彰状、送料
寄付金	500,000	0	-500,000	
事務局運営管理費	2,603,760	2,600,000	-3,760	事務局人件費(アルバイト2名×12か月+交通費)、事務局賃料、レンタル倉庫代、会議室使用料
雑費	492,200	550,000	57,800	税理士顧問料、振込手数料、ネットバンキング使用料
法人税等	70,000	70,000	0	東京都法人住民税均等割
事業活動支出計	20,531,930	18,657,937	-1,873,993	
事業活動収支差額	2,190,572	2,086,063	-104,509	
II. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0			
出資金収入	0		0	
受取利息	17,004	17,004	0	
財務活動収入計	17,004	17,004	0	
2. 財務活動支出	0			
財務活動支出計	0		0	
財務活動収支差額	17,004	17,004	0	
III. 予備費支出	0			
当期収支差額	2,207,576	2,103,067	-104,509	
前期繰越金	30,036,670	32,244,246	2,207,576	
次期繰越金	32,244,246	34,347,313	2,103,067	

第六号議案 新規加盟校、校名変更

令和7年度新規加盟につき坂本理事長より申請書類と共に説明があり、審議の結果、加盟は承認された。

文部科学省指定校

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600 - 1
国際医療福祉大学 保健医療学部 医学検査学科（定員 80 名）
議決権者：学科長 教授 藤巻 慎一 先生

校名の変更

新校名；東京科学大学 医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻
旧校名：東京医科歯科大学 医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻

第七号議案 各種委員会委員

令和7-8年度の各種委員会・部会の委員について、各担当理事から推薦があり、審議の結果、委員が承認された。

※委員名簿は議事録での公表はしないが、事務局にて保管。

第八号議案 次期カリキュラム改正等に向けた事前調査

次期カリキュラム改正等に向けた事前調査につき、坂本理事長より以下の内容に関する説明があり、調査内容が承認された。

日本臨床衛生検査技師会(日臨技)とワーキンググループ(WG)を設け、臨地実習について以下の点について本会の要望を伝え、報告事項 3)のように日臨技と歩調を合わせることは出来ている。

- ① 新制度の内容から大きい変更の要望は無いが、実施すべき行為、見学すべき行為の微修正を要望したい。特に、肺機能検査。
- ② 臨地実習指導者が各施設に複数名在籍して欲しい
- ③ 臨地実習ガイドラインの内容、特に様式8の評価基準内容を見直して欲しい

学内教育について、以下を本会として考える

- ① 生化学検査学と免疫検査学を合わせて6単位となっているが、分離を要望する
- ② 国家試験出題基準と教育内容の整合性をとって頂きたい。
- ③ 教育上必要な機械器具、標本及び模型について、削除希望物品の再調査を会員校へ実施し確定後に削除物品を提案予定
- ④ 指定校化への統一について再度の確認

生化学検査学と免疫検査学の区分を厚生労働省へ提案する際の懸念事項

生化学検査学と免疫検査学の区分を要求する根拠として、教育内容へ良い効果はみこめるか。
または、新カリキュラムで支障が生じているか。単位の区分方法はどのようにするか。

第九号議案 地区部会の区分

継続審議であった関東・中部・甲信越部会の区分案につき、坂本理事長から「関東・甲信越（関東7都県、長野、新潟）」「中部（静岡、愛知、三重、岐阜、石川）」へ区分、区分に関する組織運営規定と会則の改正について説明があり、改正が承認された。

組織運営規定 改正案 赤字が修正箇所

新	旧
第4章 第22条 2 地区部会委員会の下に次の部会を置く。 一、北海道・東北部会 二、関東・甲信越部会 三、 中部部会 四、近畿・中国・四国部会 五、九州・沖縄部会	第4章 第22条 2 地区部会委員会の下に次の部会を置く。 一、北海道・東北部会 二、関東・ 中部 ・甲信越部会 三、近畿・中国・四国部会 四、九州・沖縄部会

地区部会 会則 改正案 赤字が修正箇所

新	旧
第1条 本会の名称は、地区ごとにそれぞれ、北海道・東北部会、関東・甲信越部会、 中部部会 、近畿・中国・四国部会、九州・沖縄部会とする。	第1条 本会の名称は、地区ごとにそれぞれ、北海道・東北部会、関東・ 中部 ・甲信越部会、近畿・中国・四国部会、九州・沖縄部会とする。

第十号議案 医歯薬出版教科書

医歯薬出版社から出版される教科書作成について坂本理事長から説明があり、本会として協力することに関して審議し、協力が承認された。

第十一号議案 共催依頼

本会との共済シンポジウムにつき、以下の2箇所からの依頼について坂本理事長から説明があり、審議の結果、共催が承認された。

1. 第65回日本臨床化学会年次学術集会 学生シンポジウム
2. 令和7年度 日本臨床衛生検査技師会支部 医学検査学会内 「中高生進路支援ガイダンス」

その他の議案

なし

以上、予定していた報告及び審議事項を終え、Zoomでも滞りなく理事会を進行できたことを確認し、14時58分に終了した。

令和7年5月16日

代表理事(理事長) 坂本秀生 印